

フィリピン大学  
交換留学報告書

静岡県立大学 国際関係学部 言語文化学科

3年英米コース

私にとって今回のフィリピン留学は、初めての海外、初めての寮での共同生活などすべてが初めての体験で最初は少し不安もありましたが、今では最も充実した日々を過ごしたと感じています。半年という短い期間ではありましたが、こうして振り返ってみると、想像を超える素晴らしい体験だったと思います。

もちろん、最初は楽しいことばかりではありませんでした。フィリピン英語に慣れるまでは時間がかかりましたし、劣等感にさいなまれて落ち込み、授業が終わってわからないことが多すぎてよく泣きながら復習していました。それでも絶対最後の授業までに100%理解する！と決意して、自分の中で、先生に必ず質問すること、授業中に最低一回は発言すること、予習復習をすることを徹底的にやりました。そうすることで少しずつですが、授業の内容も理解できるようになり、試験でもベストを尽くすことができました。英語力もTOEICの点数も100点以上あがり、自分でも驚くほど上達したと感じました。それでも自分だけの力で最後までやりきれたとは思いません。周りの友達のサポートや、先生の力ももちろんあります。自分の頑張りは、必ず誰かが見てくれているのだなとよく感じました。英語の面ももちろんそうですが、新しい環境に身を置いて自分を見つめなおしながら成長するいい機会だったと思います。

フィリピンという国が私にとってはじめての海外だったので、すべてが刺激的でした。カラフルで人々はいつもみんな歌っていて適当で、どこにでも警備員がいて、フルーツが美味しくて、東京みたいな街のすぐ隣にはスラム街があるような国です。大学内でご飯を食べていても物乞いの子供がやってきてよくしゃべりかけてきました。ショックなことも多々ありました。でもフィリピンの人はみんな明るくて優しいです。私は彼らが大好きです。帰国後もフィリピンのニュースはよくチェックしています。自分の目でちゃんと見たものは大切にできるのだ、と感じました。留学に行くと自分の世界が広がるとはよく言いますが、私は、他人事だと感じていたものがそうは感じなくなりました。「知らないことを知る」というのは、とても貴重で大切な体験です。スマートフォンをみて情報を得ることも「知る」ということになりますが、自分で行ってみて感じるものというのはそれとは比にならないくらい自分の糧になります。留学というものは「知らなかったことを知れる」ととても良い機会だと思います。

私が滞在していた寮は国際寮で、フィリピン人はもちろんほかの様々な国籍の留学生も滞在していました。そこにはロビーがあり、勉強している人、談笑している人、卓球している人、ご飯を食べている人など、行けば常にだれかがいました。私はよく友達とボードゲームをして遊んでいました。全然知らない子も話しかけてくれたりして、輪に入れてよく遊びました。ボードゲームは人と人との距離を縮めてくれるものだと感じました。英語でプレイをしてわからないことがあればお互い聞いたり、自分と相手の文化の違いに驚いたり、ゲームを通じてたくさんのことを学びました。高校の時に弓道部でアーチェリーもやってみたかったので、アーチェリークラブに参加したときも先生と日本の弓道について話したり、アーチェリー用語を学べたりと意外なほどに勉強になるものがたくさんありま

した。学べる場は学校の授業だけじゃないのだと強く感じました。行動を起こして人と触れ合えば、そこには何かしら得るものがあります。自らで行動していく、これもとても大切だと思いました。

留学を辛いものか楽しいものにするかは自分次第だと思います。部屋に閉じこもっては何も起きません。不安なことも多いかもしれませんが、自分がきちんと考えて正しいと思われる行動の選択をすれば、おのずと結果はついてきます。フィリピンでの留学は私の人生に多大なる影響をこれからも与え続けると思います。私はフィリピン留学での努力を忘れずに、これからも精進したいと思います。